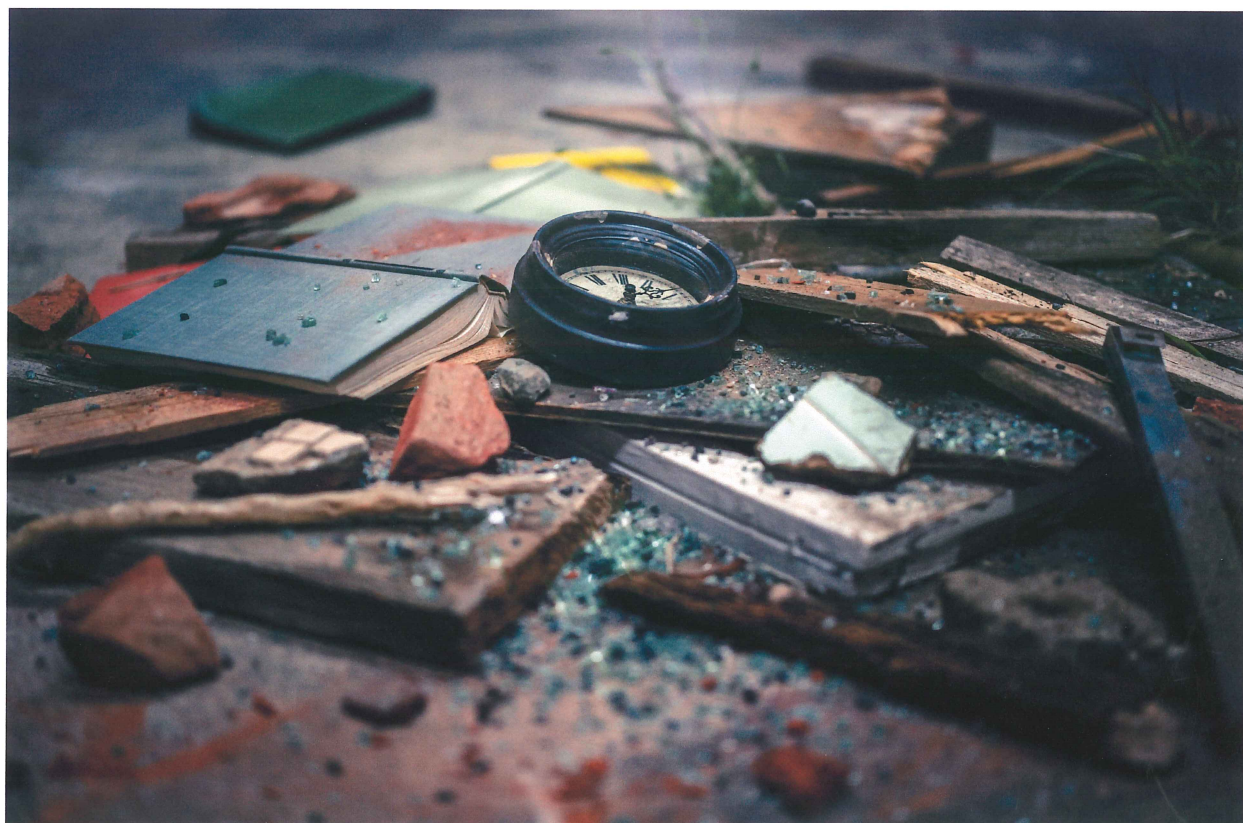


第58回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展
日本館 キュレーター指名コンペティション「企画提案書」

出品作家

目 【m é】



キュレーター **荒木夏実** (東京藝術大学准教授)

不確かな世界を確認する行為としての美術

「私たちはどこにいるのか」という問いを体感する

世界の情勢は激しく揺れ動いている。各地で既存の政治体制や連合体の枠組みが崩れ始めている。一方でテクノロジーの発達は情報手段に変革をもたらし、コミュニティーやアイデンティティの概念にも大きな影響を与えている。その流れの中で、これまでにはなかった新たな可能性や分断が生まれている。

目まぐるしく動くこの世界において、リアリティとは何か。私たちの居場所はどこにあるのか。人間にとって本質的なこの問いを、ヴェネチア・ビエンナーレという芸術の祭典の場において、美術を通して考える試みを行いたい。目、身体、頭のあらゆる感覚を使ってそれを体感する場所として、日本館をダイナミックに「改造」する。この実験に挑むのはアーティスト・コレクティブの「目」である。

観客それぞれの記憶と結びつく場

空間を見事に変容させる作品によって注目されてきた「目」の作品は、観客の体験なくしては成立しない。今回のプランでは、日本館の建物全体を使って、その歴史や構造も含めたフィクショナルな空間を表現する。廃墟のように見える部屋には見慣れたモノが散らばっているが、それらは脈絡に欠け、予定調和的な物語を寄せつけない。しかし同時に、観客一人ひとりにはそれらのモノを個人的な記憶と結びつけることになるだろう。あらゆる人に開かれつつ単一の意味に収斂されることのない、自由なアート空間を創出する。

解釈の多層性と見ることの楽しみ

崩壊や廃墟を想起させるイメージには不穏な雰囲気漂う。しかし、自然光が差し込む空間に独特の美しさや神聖さを見出すこともできる。古く朽ちたものを愛でるという美術の行為の伝統にもまた気づかされる。さまざまな人的あるいは自然災害の痕跡も、悠久の時の流れの中でやがては歴史となり、地層と化すという事実にも。

さまざまな思索が促されると同時に、見ること、体験することの楽しさを存分に味わうことができるのもこの作品の魅力である。本展のハイライトの一つは、回転する床である。日本館の特徴である展示室中央の床の開口部に、モーターで動くターンテーブル状の床を取りつけ、その上に置かれた時計の針と同じ速度でゆっくり（6mm／秒、1周／時）と回転する仕組みを作る。他の部屋への通路となるこの空間の変化に気づくとき、新鮮な驚きと共に私たちが生きる世界が絶えず動き続けていることが意識されるだろう。常に消えゆく一瞬の時は悲しみを伴うかもしれないが、変化は新しさへと向かう希望でもある。

見る、発見するという行為を観客の目に委ねつつ、変幻する不確かな世界を確認しながら前へと進むこと。この試みを若きアーティストたちと共に伝統あるヴェネチア・ビエンナーレの日本館で実現させることは、意義のある美術の挑戦だと考える。

■出品作家の選定理由

「目」は荒神明香、南川憲二、増井宏文によるアーティスト・コレクティブである。アーティストとしてソロで活動していた荒神と、参加型プロジェクトを行うグループ wah document (わう どきゅめんと) の南川と増井により 2012 年に結成され、展示空間や観客を含めた状況を美術表現として示す試みを行なっている。ギャラリー空間をホテルの部屋に変える《たよりない現実、この世界の在りか》(資生堂ギャラリー、2014 年)、巨大な男性の顔を転写した風船を空に浮かべる《おじさんの顔が空に浮かぶ日》(宇都宮美術館主催、宇都宮市街地、2013-14 年) など、夢と現実の境界線上にあるかのような不可思議なヴィジョンを作り出す手法で注目されてきた。2016 年の「さいたまトリエンナーレ」では湖の風景を出現させる作品《Elemental Detection》が話題になるなどその活躍はめざましく、今最も注目される若手日本人アーティストのひと組である。

視覚的、体験的にインパクトの強い作品を発表してきた「目」だが、彼らが目指すのはスペクタキュラーな仕掛けの面白さだけではない。東日本大震災の被災地である石巻で開催された「リボン・アートフェスティバル」(2017 年)において発表された《repetition window》は、「目」の表現者としての覚悟と気迫を感じさせる力強い作品であった。観客はまず古い家屋の懐かしい雰囲気や漂う縁側に通されるのだが、突如として家が動き、町中に移動し始める。かつてそこに存在したことを思わせる日常の空間は、トレーラーの上に載せられた精巧な作り物だったのである。トレーラーは、建物が流されて草地になった海岸沿いの道を走って行く。観客は車窓(縁側のガラス窓)からその風景に向き合うことになる。複雑な感情や戸惑いによって率直に「見る」ことが憚られるその光景を、観客は突きつけられると同時に見る行為を「許される」のである。

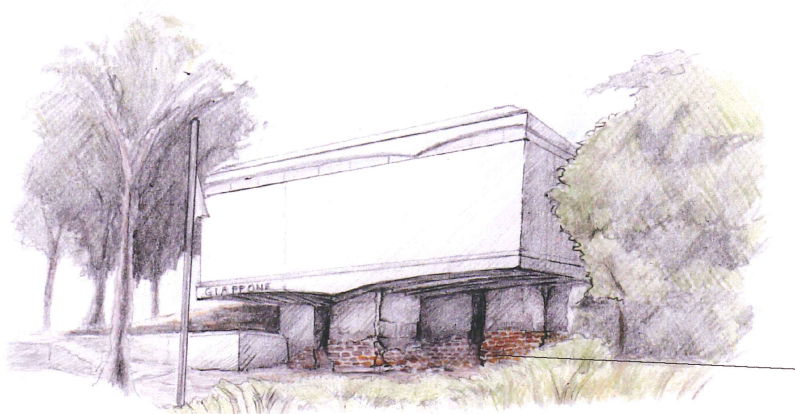
きわめてセンシティブかつポリティカルな「風景」を、アートという装置を使って浮かび上がらせ、忌避や忘却から解放すること。このような難しいタスクを「目」は卓越した創造性と造形力、複雑なプロジェクトを遂行するマネジメント能力を発揮して実現させる。異なる能力を最大限に生かす、コレクティブだからこそ可能なチームワークのなせる技である。

今回のヴェネチア・ビエンナーレのためのプランには、荒神が東日本大震災の直後に被災地で見たさまざまなヴィジョンが含まれている。横転した家の窓から垂れ下がるカーテン、砂浜に埋まった便器、海から離れた場所で腐りかけた魚。本来の機能や場所を失ったモノは、暴力や悲しみを想起させながらも、意味を突き放す物質としてただそこに存在する。「目」は自身のヴィジョンや他者の記憶を紡ぎ合わせ、現実と虚構、プライベートとパブリックの境界を行き来しながら、能動的に「見る」ことを観客に促す。それはアーティストがあらかじめ用意した答え探しではなく、個人の記憶や解釈によって成立する美術体験である。

観客を巻き込むダイナミックな魅力、緻密で計画的な造形力、全員 30 代という若いアーティスト集団が着実に示してきた実力と話題性は、ヴェネチアの舞台上で存分に発揮されるものと考えられる。さらに、個人の活動を超越するアーティスト・コレクティブのもつポテンシャルは世界的に注目されており、美術部門では日本館初となるコレクティブによる展示は、現在の潮流と可能性を示す観点からも意義がある。日本の美術の未来を世界に示す若き力として、「目」を強く推薦する。

■展示プラン

○外観



①

日本館の柱のモルタル部分が剥げ落ち、レンガの構造がのぞいている。古くからベネチアの建築物によく見られるレンガ造りであったように見える。

上部の展示室を支える大きな柱は少し斜めに傾き、崩れているように見える。

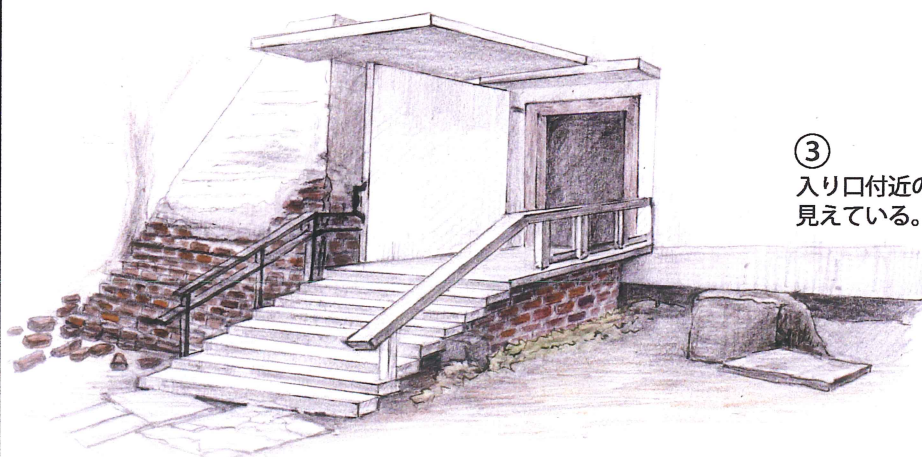


レンガの材質は日本館の脇で使用されているものと同様に見えるように、汚れや劣化の形跡が施される。



②

ピロティには柱から崩れ落ちたようなレンガやモルタルの残骸が散らばっていて、古いソファと椅子が置かれている。観客は腰掛けることもできる。



③

入り口付近の仕様も、一部崩れた古いレンガの構造が見えている。

○内観



時計

- ④ 朽ちたように崩れる古い壁とその構造（レンガ、漆喰、木材）が見えている。床にはその残骸などが散在している。展示室の中央に位置する空間は、天井の窓からの自然光に照らされていて、天井の梁に掛かったカーテンがずっと下に垂れ下がっている。



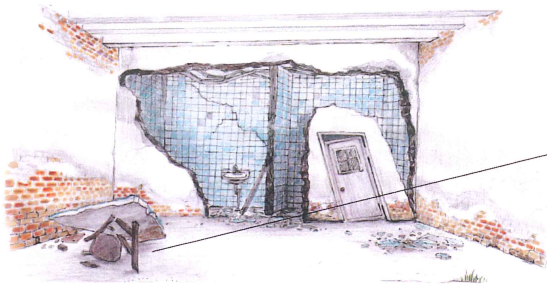
床の中央には時計が落ちている。壁に囲われた中央の空間は、この時計の時針と同じ速度で1時間に一周、壁や床と一緒に非常にゆっくりと回転している。(6mm/秒、1周/時)



床と同化する魚の骨らしき物

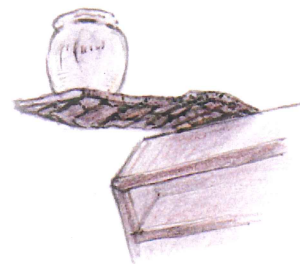
- ⑤ ここにあるはずのないようなものが、唐突でありながらも自然に空間の中に馴染んでいる。

まるでついさっきまで人がいたように、人為的に並べられたような空き瓶や器。中に比較的新しいものもある。

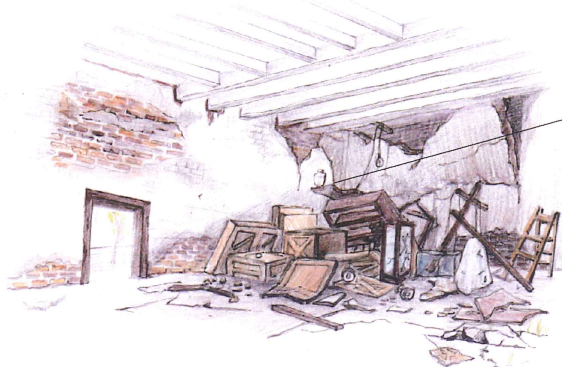


⑥

壁が大きく崩れ、洗面器や壁のカラータイルが見えている。
大きな壁の塊が崩れた椅子の構造に支えられている。



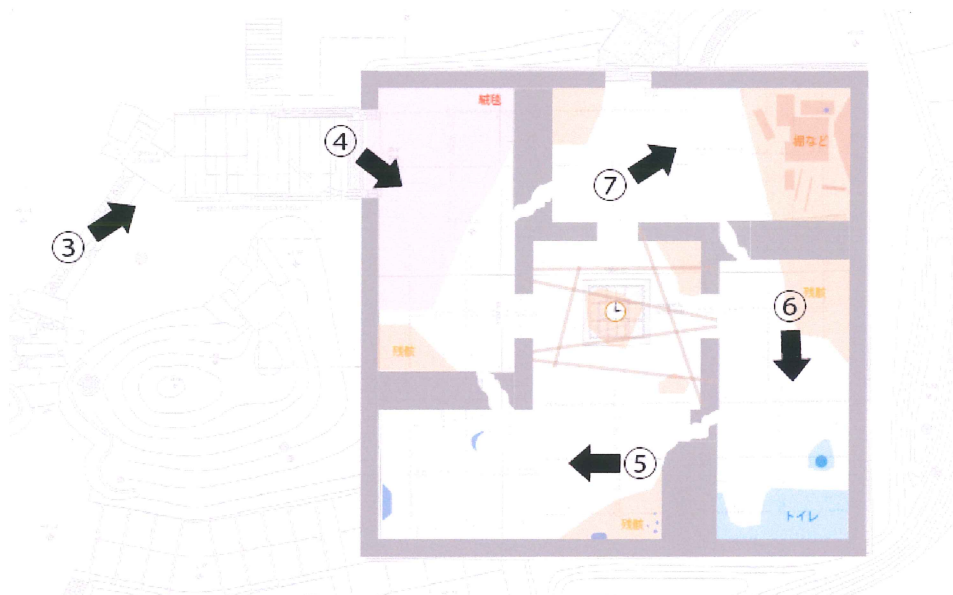
古い壺が、壁から剥がれた
構造の上に立っている。



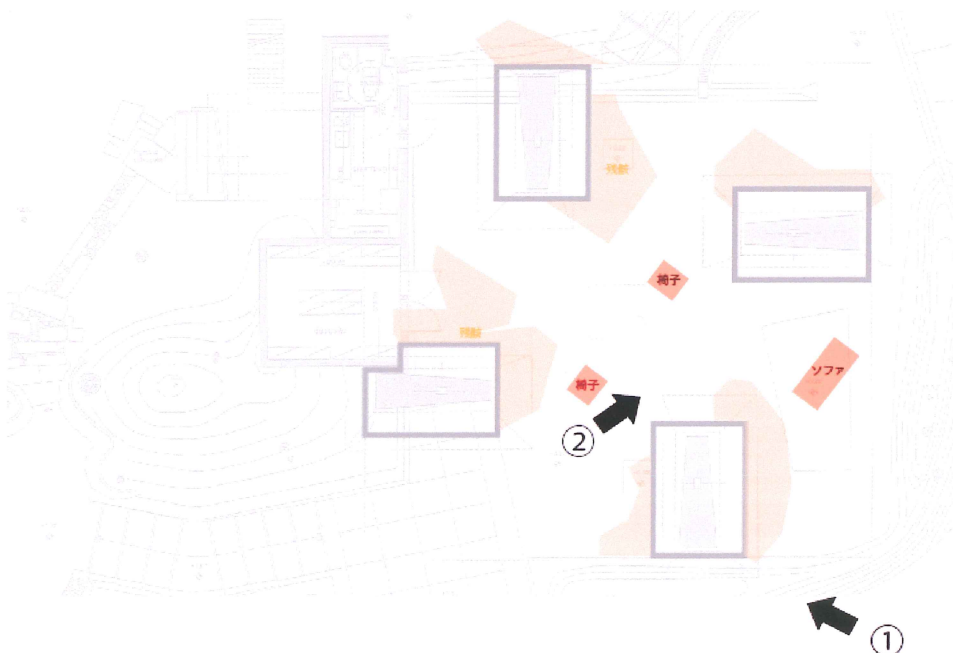
⑦

出口付近には展示室に残されていたようなクレート、展示台、
ラックが倒れ、どこか見覚えのある備品などが散乱している。

■平面図



2F 展示室



1F ピロティ

■ 模型



■予算案

(単位：万円)

項目	内容	単価	合計
現地管理運営経費	会場運営費、現地コーディネータ謝金等	1000	1000
作品制作費	薄型電動ターンテーブル	200	800
	躯体材料費・躯体制作人件費	500	
	物品制作費・物品制作人件費	100	
作品輸送費	40 フィートコンテナ2台 (保険料込み)	800	800
展示施工費	薄型電動ターンテーブル設置施工	80	280
	躯体・物品設置施工	200	
関係者旅費	日本ー欧州	200	320
	滞在宿泊費	120	
カタログ作成費	デザイン・翻訳・印刷	400	400
広報費	無料パンフレット、郵送費等	300	300
予備費	作品制作・展示施工・予備費	100	100
合計			4000

■協力

□建築

建築設計

株式会社SUO (建築家 周防貴之氏)

構造計算

平岩良之氏

□ターンテーブル

ターンテーブル制作

株式会社井口機工製作所

エンジニア

DESIGNFIELD 小林良昭氏

■協賛

株式会社SCAI THE BATHHOUSE

■キュレータープロフィール

荒木夏実 (あらかしなつみ)

慶應義塾大学文学部卒業、英国レスター大学ミュージアム・スタディーズ修了。三鷹市芸術文化振興財団キュレーター (1994-2002) を経て森美術館のキュレーターとして多くの展覧会を企画 (2003-2018)。2010年より慶應義塾大学非常勤講師。2018年より東京藝術大学准教授。主な展覧会は「ストーリーテラーズ：アートが紡ぐ物語」(2005)、「六本木クロッシング 2007：未来への脈動」(2007)、「小谷元彦展：幽体の知覚」(2010)、「LOVE：アートにみる愛のかたち」(2013)、「ゴー・ビトゥーンズ展：こどもを通して見る世界」(2014)、「ディン・Q・レ展：明日への記憶」(2015)、「六本木クロッシング 2016：僕の身体、あなたの声」(2016) など。ソウル市美術館での「City_net Asia 2009」では共同キュレーターを務める。「ゴー・ビトゥーンズ展」で第26回倫雅美術奨励賞 (美術評論部門)、第10回西洋美術振興財団賞を受賞。

■ 出品作家略歴

photo : Takahiro Tsushima



左から南川、荒神、増井

目【mé】

■ 主なプロジェクト（芸術祭・フェスティバルなど）

- 2013年 迷路のまち～変幻自在の路地空間2013～／瀬戸内国際芸術祭2013
FICTIONAL SCAPER／象の鼻テラス 横浜
- 2014年 世界に溶けるドキュメント／ヨコハマ・パラトリエンナーレ
羅生門 藪の中（坂田ゆかり演出）／あうるスポット 東京（舞台美術を担当）
- 2015年 見立線／おおいとトリエンナーレ 大分
憶測の成立／越後妻有トリエンナーレ
- 2016年 迷路のまち～変幻自在の路地空間2016～／瀬戸内国際芸術祭2016
二子玉川探景車／TOKYO ART FLOW 東京
Distribution Works／S-HOUSE Museum 岡山
Elemental Detection／さいたまトリエンナーレ2016
- 2017年 信濃大町実景舎／北アルプス国際芸術祭 長野
repetition window／Reborn-Art Festival 石巻
Sense of Oneness（コンセプトビジュアル）／ヨコハマ・パラトリエンナーレ

■ 主なグループ展

- 2015年 「カフェ・イン・水戸R」展／水戸芸術館
「"TOKYO"～見えない都市を見せる～」／東京都現代美術館
- 2017年 「TURNフェス3」／東京都美術館

■ 主な個展

- 2014年 状況の配列／三菱地所アルティアム 福岡
たよりない現実この世界の在りか／資生堂ギャラリー 東京
おじさんの顔が空に浮かぶ日／宇都宮美術館館外プロジェクト2014
- 2017年 奥行き近く／目inBeppu 大分

■ 受賞

- 2018年 第28回 タカシマヤ文化基金受賞

□アーティスト

荒神明香（こうじんはるか）

1983年 広島生まれ

2009年 東京藝術大学大学院美術研究科修了

ニューヨーク、サンパウロ、メッス（フランス）など国内外で作品を発表。瀬戸内国際芸術祭「犬島」にて常設展示中

○受賞

2007年「東京藝術大学 卒業・修了制作展」買い上げ作品賞

「Art Award tokyo2007」グランプリ受賞

○パブリック・コレクション

東京都現代美術館、サンパウロ近代美術館（ブラジル）、東京藝術大学大学美術館

□ディレクター

南川憲二（みなみがわけんじ）

1979年 大阪生まれ

2009年 東京藝術大学大学院 美術研究科修了

wah document（わうどきゅめんと）を起ち上げ各地で活動を展開 <http://wah-document.com/>

○受賞

2009年「東京藝術大学 卒業・修了制作展」川俣正賞

「Art Award tokyo2009」グランプリ受賞

□インストーラー

増井宏文（ますいひろふみ）

1980年 滋賀生まれ

2004年 成安造形大学造形学部卒業

2009年～14年 京都造形芸術大学非常勤講師

wah document 運営メンバーとして活動

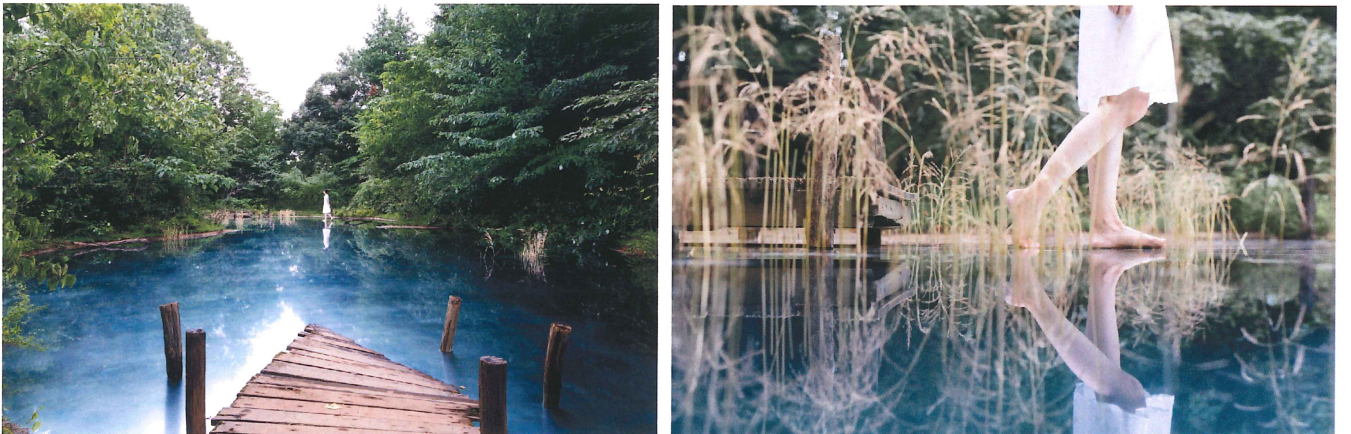
■参考作品



「repetition window」 2017年制作／宮城県石巻市被災地エリア／Reborn-Art Festival 参加作品



「信濃大町実景舎」 2017年制作／長野県大町市鷹狩山山頂／北アルプス国際芸術祭 参加作品



「Elemental Detection」 2016年制作／さいたまトリエンナーレ 参加作品



「おじさんの顔が空に浮かぶ日」 2013年-2014年年制作／主催 宇都宮美術館 館外プロジェクト